

石田啓祐* : 徳島県東部の秩父累帯中帯泥質岩よりペルム紀放射虫の発見

Keisuke ISHIDA* : Discovery of Permian radiolarians from the pelitic rocks in the Middle Zone of the Chichibu Belt in eastern part of Tokushima Prefecture, Shikoku

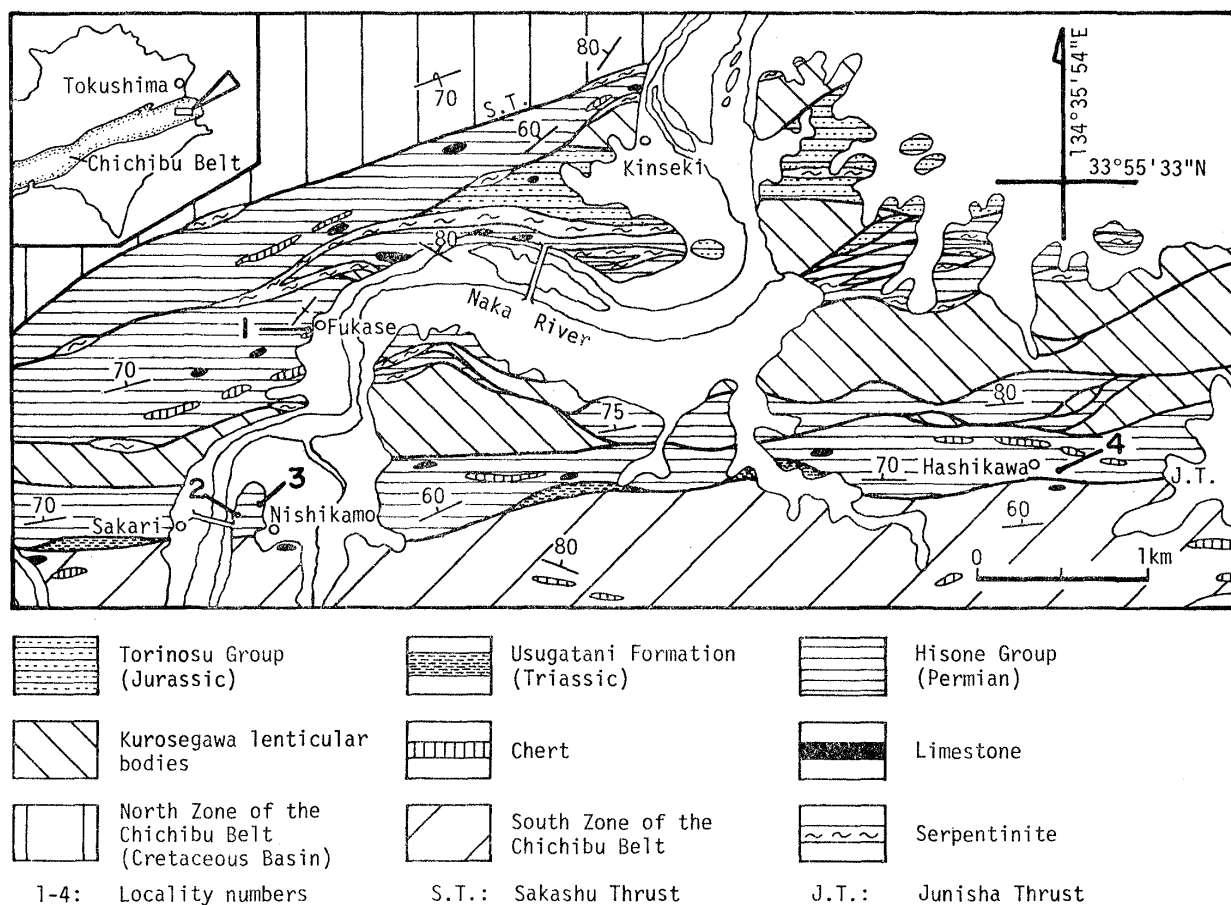
最近の放射虫の研究によって、四国の秩父累帯にはジュラ紀の地層群が広く分布することが知られている。一方、オリストリスの石灰岩やチャート岩体を除けば、後期古生代を示す化石の報告は少ない。このたび四国東部の秩父累帯中帯に分布する泥質岩より、ペルム紀の放射虫を検出したので報告する。

徳島県東部、阿南市加茂谷地域の秩父累帯中帯には、檜曾根層群が広く分布する(第1図; 須鎗, 1958)。当地域の檜曾根層群は、擾乱を受けた泥岩~泥岩勝ち砂岩泥

岩互層を主体として、酸性凝灰岩の薄層を挟み、石灰岩やチャートの岩体、塩基性火山岩類を伴う。また本層群は5帯に分かれて分布しており、各帯の間には蛇紋岩や黒瀬川構造帯のレンズ状部を挟み、その周辺では準片岩化が著しい。

檜曾根層群各地点の岩類とそれより得られたペルム紀放射虫を以下に示す。

Loc. 1 阿南市深瀬町深瀬: 黒色泥岩(Loc. 1a) より *Follicullus scholasticus* ORMISTON & BABCOCK, *Albail-*



第1図 加茂谷地域, 秩父累帯中帯の地質略図

1984年6月18日受付. 1984年11月19日受理.

* 徳島大学教養部地学教室. Department of Earth Science, College of General Education, University of Tokushima, Tokushima, 770 Japan.

lella cf. *levis* ISHIGA, KITO & IMOTO を産する。またこの泥岩に挟まれる板状層理の発達した緻密な淡緑色酸性凝灰岩塊 (Loc. 1b, 長径 10m) からは, *Follicucullus ventricosus* ORMISTON & BABCOCK, *F. sp. A*, *Nazarovispongus?* sp. を産する。

Loc. 2 阿南市十八女大橋東岸: 縞状砂質泥岩より, 多量の海綿骨針と共に *Follicucullus sp. A* を産する。

Loc. 3 阿南市加茂町西加茂: 泥岩に挟まれる淡緑色酸性凝灰岩薄層より *Follicucullus scholasticus* ORMISTON & BABCOCK, *F. sp. B* を産する。

Loc. 4 阿南市下大野町橋川: 粗粒の酸性凝灰岩(約 3m)の上に縞状砂質泥岩(約2m)を挟んで, 砂岩泥岩等量~砂岩優勢互層が連続的に重なっている。この縞状砂質泥岩より *Pseudoalbaillella scalprata* HOLDSWORTH & JONES, *P. lomentaria* ISHIGA & IMOTO, *P. sakmarensis* (KOZUR), *P. cf. elegans* ISHIGA & IMOTO を産する。

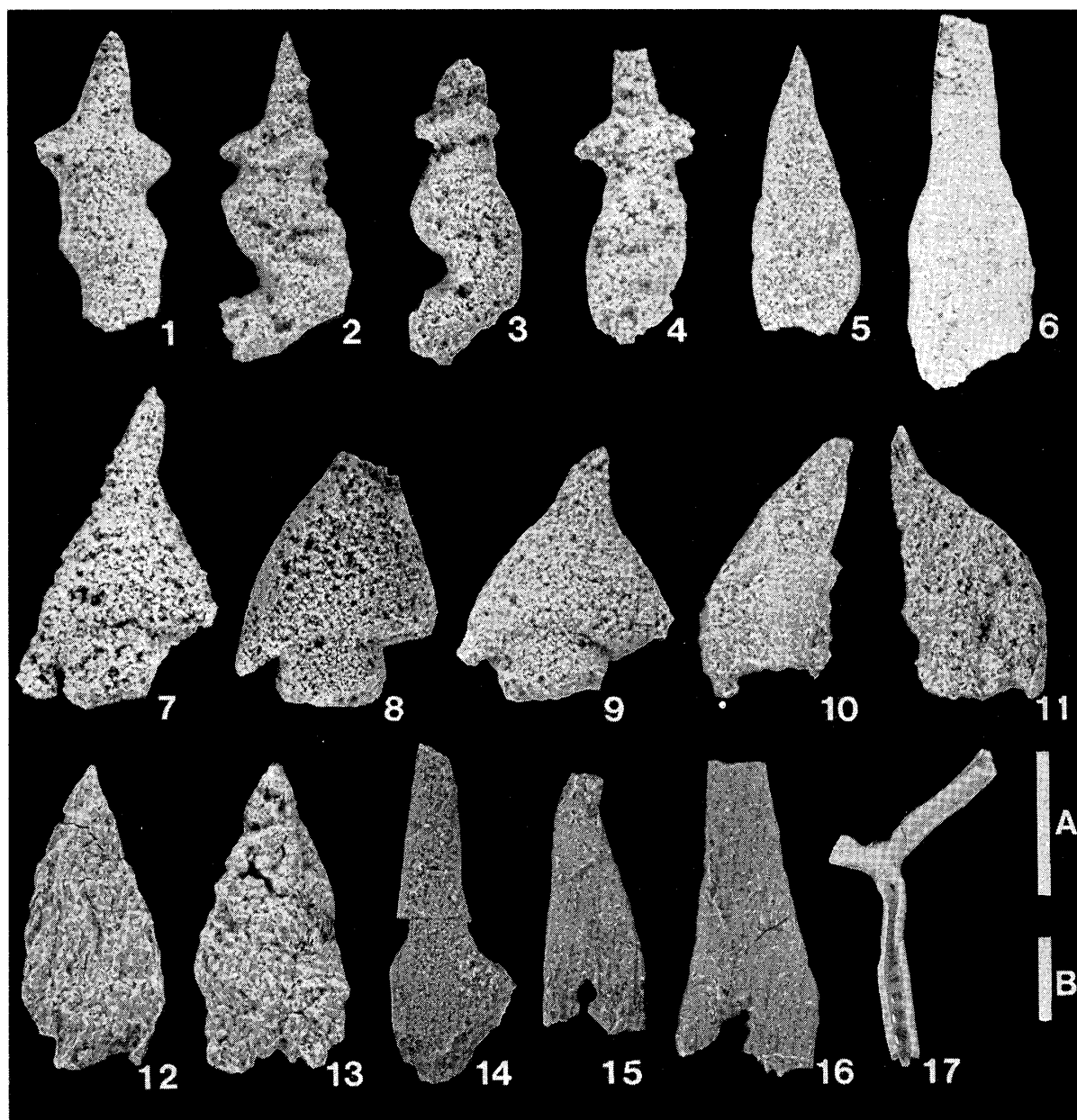
以上のうち Locs. 1a, 1b, 3から産した放散虫は, ORMISTON & BABCOCK (1979), ISHIGA *et al.* (1982)によればペルム紀新世を示し, Loc. 2の放散虫も同様の年代を示すと考えられる。また Loc. 4より産した放散虫群集は, HOLDSWORTH & JONES (1980), KOZUR (1981)によればペルム紀古世を示すと考えられる。従来, 当地域の檜曾根層群に含まれる石灰岩体からは, *Pseudoschwagerina* 帯~*Yabeina* 帯の紡錘虫を産しており (SUYARI, 1961), 放散虫によって明らかにされた泥質岩の年代と一致している。またこれらの地層からは中生代以降の化石は産出していない。

今回の放散虫の検出によって, 四国東部の秩父累帯中帯にはペルム系下部及び上部の泥質岩が分布することが

裏づけられた。須鎗ほか(1983), 桑野ほか(1984)は四国中・東部の秩父累帯北帯の南半部にペルム系の碎屑岩が分布することを明らかにしている。これら3地域に分布する地層群は同様の層相をしており, 秩父累帯中帯~北帯南半部には上部古生界の泥質岩が広く分布することが予想される。

文 献

- HOLDSWORTH, B. K. and JONES, D. L., 1980: Preliminary radiolarian zonation for Late Devonian through Permian time. *Geology*, **8**, 281-285.
- ISHIGA, H., KITO, T. and IMOTO, N., 1982: Permian radiolarian biostratigraphy. *News of Osaka Micropaleontologists, Spec. Vol.*, no. 5, 17-26.
- KOZUR, H., 1981: *Albaillellidea* (Radiolaria) aus dem Unterperm des Vorurals. *Geol. Paläont. Mitt. Innsbruck*, **10**, 263-274.
- 桑野幸夫・須鎗和巳・石田啓祐, 1984: 徳島県秩父累帯北帯南縁に分布する中・古生界について。日本地質学会第91年大会演旨, 183.
- ORMISTON, A. and BABCOCK, L., 1979: *Follicucullus*, new radiolarian genus from the Guadalupian (Permian) Lamar Limestone of the Delaware Basin. *Jour. Paleont.*, **53**, 328-334.
- 須鎗和巳, 1958: 徳島県加茂谷付近の地質, その2。徳島大学芸紀要, 自然科学, **8**, 47-57.
- SUYARI, K., 1961: Geological and paleontological studies in central and eastern Shikoku, Japan—Part I, geology. *Jour. Gakugei, Tokushima Univ., Nat. Sci.*, **11**, 11-76.
- 須鎗和巳・桑野幸夫・石田啓祐, 1983: 四国中央部秩父累帯北帯の生層序学的研究。徳島大教養部紀要, 自然科学, **16**, 143-167.



図版説明

スケールは 100 μ , A: 1-16, B: 17.

1. *Pseudoalbaillella lomentaria* ISHIGA & IMOTO. Loc. 4
- 2,3 *Pseudoalbaillella sakmarensis* (KOZUR). Loc. 4
4. *Pseudoalbaillella* cf. *elegans* ISHIGA & IMOTO. Loc. 4
5. *Follicucullus scholasticus* ORMISTON & BABCOCK. Loc. 1a
6. *Follicucullus scholasticus* ORMISTON & BABCOCK. Loc. 3
- 7,8,9. *Pseudoalbaillella scalprata* HOLDSWORTH & JONES. Loc. 4
- 10,11. *Albaillella* cf. *levis* ISHIGA, KITO & IMOTO. Loc. 1a
12. *Follicucullus* sp. A. Loc. 2
13. *Follicucullus* sp. A. Loc. 1b
14. *Follicucullus ventricosus* ORMISTON & BABCOCK. Loc. 1b
- 15,16. *Follicucullus* sp. B. Loc. 3
17. *Nazarovispongia* ? sp. Loc. 1b